

# 資 料

平成 29 年度事業計画

2017 年 4 月 1 日

公益財団法人日本セーリング連盟

# 平成 29 年度 JSAF 実行計画と基本方針

## 【基本方針】

セーリングは、他のスポーツとは違い、自然、技術、ルールを駆使し総合人間力を発揮するスポーツである。

セーリングは、

自然の力を利用し

技術はすべてを可能にし

環境に責任をとる (World Sailing)

セーリングのより一層の普及・振興・発展のために、セーリングワールドカップや 2020 年東京オリンピックに向けての活動を契機として、本年はセーリングのより一層の振興発展を図る飛躍の年とする。

そのために、スポーツとして、各セーラーの活動、スキルを向上させるとともに、セーリング界の裾野を広げ、安全で快適なスポーツとして、セーリングを発展させる。

また、JSAF に属さない一般的なセーリング愛好家やセーリング界の外の方々に広くセーリング及び JSAF について普及啓発するとともに、セーリング及び JSAF を応援していただく企業・団体を募る。

## 【平成 29 年度 実行計画】

### 1. セーリング・スポーツの発展振興と安全確保

#### (1) ユース、次世代セーリングのさらなる発展に向けて

2020 年オリンピックに向けてユース世代、次世代のセーラーの育成

#### (2) セーリングワールドカップ、国際大会

セーリングワールドカップ蒲郡大会、RS : X ワールド・チャンピオンシップ、470 ジュニア・ワールド・チャンピオンシップ、テザー・ワールド 2017 など日本で開催される国際大会、世界選手権大会の成功

アメリカズカップ、ユース・アメリカズカップを応援する。

#### (3) 外洋レース、大型艇レースの活性化

ジャパンカップ、パールレース、小笠原レースなど国内の外洋レース、大型艇レースの一層活性化

#### (4) 障害者セーリングの普及、推進

障害者セーリング推進委員会をテコに、障害者セーリングの発展振興

セーリングワールドカップでの PARA 種目の成功、2018 年ハンザクラス・ワールド選手権、2020 年 PARA ワールドに向けて準備

#### (5) 国体・リハーサル大会

国民体育大会愛媛国体セーリング競技会、福井国体リハーサル大会準備を開催する。

#### (6) ルール改正とその周知

セーリング競技規則、セーリング装備規則の改正の周知とそれに伴う制度や国内規則等の改正  
特にコーチ、マネージャー、保護者等「支援者」の行動についての周知

(7) 安全確保の徹底：ライフジャケット着用の推進

小型船舶での同乗者のライフジャケット着用義務化に伴い、セーラーのライフジャケットの着用推進と、レース運営艇、コーチボート等関係船舶の安全管理の徹底を図る。

**2. 2020 東京オリンピック・パラリンピックへ向けて**

オリンピックレース運営担当者の人材確保と育成

2020 開催国として、より多くのメダル獲得に向けた選手強化

オリンピック海域での海技免許、船舶登録、船舶検査の特例措置等海外チームの受け入れに万全を期す

**3. 広く普及啓発し、セーリング界の裾野を広げる**

(1) 会員増強

JSAF の会員増強に向けて、引き続き様々な策をとる。

特に非会員であるセーリング愛好家と WEB その他の方法での対話を通じた啓もう活動を通して、会員の増強につなげる。

(2) 普及啓発

セーリング応援団長・加山雄三さんに積極的にご支援していただく。

普及啓発のため、女性セーラー参画、海と日本プロジェクト参加、環境コンテストなどの推進

(3) サポート企業・団体・会員の開拓

オリンピック強化、2020 東京オリンピックに向けた、セーリングのサポート企業・団体の開拓

(4) セーリング界の外のファンの開拓

セーリング界の外のファンを開拓する。そのためにボートショー始め様々な機会にセーリングの PR を行う。

**4. セーリング界を支える連盟組織の強化**

(1) 公益財団法人としてのガバナンスの強化、コンプライアンスの確保

ガバナンスの強化、財政基盤を強化

理事会、評議員会の活性化とコンプライアンス確保

ワールドセーリング、ASAF（アジア・セーリング連盟）などでの役員ポスト獲得を進め、JSAF の NF（各国連盟）としての国際プレゼンスを高める。

(2) 会員管理新システムの本格移行

会員管理システムの本格移行、会員・加盟団体にさらなるサービスの質的量的向上

全面電子会員証化

(3) ホームページの充実

JSAF ホームページの更なる充実

ワールドカップのホームページを開設する。

(4) レース・オフィシャルズの向上

セーリングの競技推進に関して、ジャッジ、アンパイア、レース・オフィサー、メジャラーの資格

者発掘を推進

ルール改正に伴う資格更新に合わせてレース・オフィシャルズの資質向上を図る

共同主催・公認・後援する大会における「後援」基準について検討、後援事業の適正運営の確保を図る。

(5) セーリングを支える委員会活動の活発化

立ちあがったばかりのアスリート委員会の活動の活発化

セーリングの普及発展に関して、各委員会活動の活性化に取り組む

## 【総務・広報グループ】

### 総務委員会（委員長：安藤淳）

1. 新たな公益財団法人としての組織運営への対応

(1) 公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化を、関係委員会と連携しながら推進する。

①理事会の開催（3ヶ月毎）

②評議員会の開催（年1回）

③全国加盟団体代表者会議の開催（年1回）

④総務委員会（原則月1回開催）

(2) 中央競技団体としての更なる自律・自立を目指し、将来方向（ガバナンス強化、組織・財務基盤の強化、運営の適正・合理性の確立、加盟・特別加盟団体との連携強化）を見据えた諸規程・基準の継続的見直しと、運用面での適正な実施を関係委員会と連携して行う。

(3) アスリート委員会、障害者セーリング推進委員会の事業計画遂行への支援を、関係委員会と連携して行う。

2. 会員管理新システムの加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上

(1) 年会費決裁代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進める。

(2) 会員管理新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟（特別加盟）団体に対する更なるサービスの質的量的向上を実現する。

(3) レガッタマネジメントシステム（エントリー料の決裁代行適用を含む）等の関連システムとの連動、情報共有を進める等、新システムの継続的機能改善を行う。

3. JSAF 公認・後援（加盟・特別加盟団体主催）行事における適正運営の継続的実施（前年度から継続）

(1) JSAF が公認・後援し加盟(特別加盟)団体が主催するレース等の行事（日本開催の世界選手権を含む）の実施に対して、安全管理対策の徹底を関連委員会とともに進める。

(2) 同上行事における、主催者保険の付与の徹底を継続して推進する。

4. JSAF 事務局業務の効率化の推進（前年度から継続実施）

(1) 事務局業務の質的向上と効率向上を進める。

(2) IT 機器を含めた事務機器の効率的活用を検討し、業務の効率化と組織内コミュニケーション能力の向上を図る。

(3) JSAF 運営資料のデータベース化を促進し、業務内容の質的向上を実現する。

#### 5. 表彰関係活動の充実（前年度から継続実施）

(1) JSAF の組織活性化に向けて、加盟（特別加盟）団体や各委員会との連携を強化しながら、定期表彰における規程や基準の見直しを進めるとともに、計画的な実施に努める。

(2) 外部団体からの表彰を、セーリング活動を通じた社会的貢献をPRする有功な機会ととらえて、各種情報の収集と推薦活動を推進する。

(3) 外部団体からの表彰を受けた会員の記録を整備する。

#### 6. 2020 東京オリンピック・パラリンピック対応（前年度から継続実施）

(1) オリンピック・パラリンピック準備委員会との連携を図り、2020 年実現へ向けた総務委員会としての所要の業務を遂行する。

(2) 2020 東京オリンピック・パラリンピック開催準備へ向けて、財政委員会他関係委員会との更なる連携により、JSAF 運営体制の強化を図る。

### 財政委員会（委員長：齋藤渉）

1. 経理基盤の強化を図る。

2. 各事業の適正な予算執行と速やかな会計報告の推進、管理を行う。

3. 健全な財政基盤の確立を図る。

4. 東京五輪に向けて増額してく事業収支に対し、適切な会計処理を行う。

### 事業開発委員会（委員長：安藤正雄）

昨年度は、円滑な業務引継ぎと運営について重点をおいて、対応に努め且つ、工夫できる商品製作には、若干経費節減及び良質な商品作りを皆様の協力でできました。しかしながら、JSAF 内の他委員会との協力での商品製作では、当委員会の実績として JSAF 内部の数値上、計上されないことは残念でした。

本年は、JSAF 基本方針（骨子）に沿い、関連委員会とも融和して 2020 年オリンピックへのビッグチャンスにセーリング普及振興活動の一助となれますよう協力と支援に尽力できる体制づくりに努める。

#### 1. 業界・サポーターとの絆

セーリング普及のためには、携わる業界の発展が不可欠と考えますので、業界との絆、サポーターとの交流を築くことに努め、さらにヨットハーバー、マリーナ及び海の駅等に JSAF 会員募集の広報と併せて会員向け特割のロゴグッズとマリンドesign商品の販路拡張を図ります。そのため、多くのセーリング関係業者の方々の提携に向けての積極的な声掛けを継続する。

## 2. 新しいロゴ「日の丸セーラーズ」を活かす

昨年同様に、日の丸セーラーズのロゴをベースに広報委員会、五輪準備委員会との協同で商品制作にあたるための打合せや提携会議等を別会議の時に専務理事の指導にて開催できますようお願いいたします。

## 3. セーラーズ交流イベント開催

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてセーリング支援者との交流を通して、商品開発に活かす。そのため、レディース委員会等と協同で、交流会イベント開催を検討し、レディース委員会と協議する。

## 4. 時流による改変・改革、そして事業開発

「事業開発」の名を基に、小物商品に限らず、海外から来日するセーラー達のための支援システム、他セーリング普及の為の事業企画をすすめる。

## 5. カレンダー制作と物流

昨年同様に、カレンダー製作をし、会員各位の購買にて完売することができたので、2018年版は、海外からの来日アスリートにも喜ばれるものを作成する。特に、同一写真を利用して、英語版小型タイプのカレンダー制作に取り組む。また、念願の物流システム構築に努め、円滑な商品製作及び管理ができるよう外部専門業者との提携も含め推進する。

## 広報委員会（委員長：柳澤康信）

### 1. ステークホルダーとの関係強化を図る。

- (1) 各委員会と連携し、会員サービスの強化を図る（連盟登録会員メールマガジン配信など）
- (2) 連盟・オリンピック強化委員会への協賛スポンサーへの一層の付加サービスの提供
- (3) 各委員会・県連・水域の情報発信のサポート強化
- (4) 新規スポンサー獲得へのサポート

### 2. JSAF ホームページのさらなる機能強化・サポートの強化

- (1) 「見やすい」、「わかりやすい」、「楽しい」、「役に立つ」を更に推し進める。
- (2) JSAF 主催レース（「ジャパンカップ」に続き「ワールドカップ」・「江ノ島オリンピックウィーク」）のサイトを新設し、実行委員会のサポートとレースレポート発信で会員へのサービス強化を図る。
- (3) ホームページを核にして、会員とのセーリング・コミュニティ強化を図る。
- (4) 会員システム開設以降は、会員へのメールニュースの配信を行う。
- (5) スポンサーにも商品紹介やタイムリーな情報をメールなど活用して行う、など新たなサービスの提供を図る。
- (6) J-SAILORS の使用を推奨し、会員・非会員、公認・非公認に関わらず活用できるヨット関連のイベント情報を提供。非会員の会員登録に繋がるサポートを図る。
- (7) セーリングの一般普及につながる情報提供を図る。

### 3. 報道機関に対する広報対応

- (1) JSAF ホームページ『PRESS ROOM』の充実化を図る。（使用できる写真を増やす）
- (2) 報道機関の「セーリング担当者リスト」の改訂・活用

- (3) 報道機関に対する最新情報（オリ特等）、ホームページ、J-SAILING の送付
- (4) 報道機関とのコミュニケーション・親交を図る。
- (5) 広報資料・キットの制作
- (6) 現在の Facebook はじめ、今後も最新 SNS を積極的に採用していく。
- 4. セーリング全体の認知・イメージアップのための広報活動
  - (1) セーリング環境に近い機関・施設（ローカル CATV・FM 局、マリーナなど）との協業機会の創出
  - (2) メディア・CM等へ露出の機会を探る。
  - (3) 一般客が多いエリアでのレース観戦・レース告知への協力
  - (4) 国体・プレ国体等の報道関連協力（報道部）
  - (5) JSAF 主催・共催イベント等への協力、広報活動
  - (6) ボートショーでのイベント開催
- 5. 各委員会・県連・水域・クラス協会へのアプローチ
  - (1) ホームページを有効に活用してもらえよう、更なる啓蒙を図る。
- 6. リオ五輪の広報サポート
  - (1) オリンピック強化委員会との連携を密に、SNS を併用しながらタイムリーな情報発信を図る。
  - (2) ワールドカップ・2020 にむけ、NT のレース活動レポートをフォロー。内外に啓蒙化を図る。

## 環境委員会（委員長：芝田崇行）

- 1. 環境キャンペーン：全日本クラスの大会への補助金支給。キャンペーンの申請方法、支給額の通達方法等を見直し、より環境啓蒙に特化した補助金とする。
- 2. 環境啓蒙ブックレット：1号目の海のプラスチックゴミに焦点をあてた版の普及を引き続き行う。2号目を作成し、引き続き環境を守るために何ができるか、子供でも分かりやすいように各号テーマを絞り展開させていく。
- 3. 環境啓蒙保全活動：
  - ①国体でのトリプルエコバッグのワークショップを継続的に行う。
  - ②ペットボトルホルダーの有効利用
  - ③その他 子供、若年層をターゲットにしたスポンサーへもアピールできる環境啓蒙活動の拡充
- 4. スポンサー対応策：スポンサーとの良好な関係の構築、継続、新たスポンサーの確保
- 5. Web site を有効活用し、外への情報発信の拡充

## レディース委員会（委員長：富田三和子）

- 1. セーリング体験
 

女性、ジュニア、中高年を対象として、セーリング未経験者に新聞、JSAF ホームページ、開催場所の市政だよりや掲示板等を利用し、知人や友人等による広報を幅広く行う。セーリング体験をすることにより、セーリングの面白さを知っていただき、セーリング人口を増やし、普及に努める。さらに、JSAF 会員増強に貢献する。

## 実施内容

日時：平成 29 年 7 月予定

場所：葉山新港

参加者：約 80 名

使用艇：大型クルーザー

講師・スタッフ：約 30 名

### 2. チャイルドルーム

- (1) 平成 29 年 福井プレ国体、愛媛国民体育大会にて設置する。

実施内容：設置場所・セーリング会場内

レディース委員：若干名・現地ボランティア（保育免許所有者）数名で実施

- (2) 全日本選手権大会及びワールドシリーズの大会でも設置できるようにする。

- (3) JOC 並びに各競技団体に積極的に働きかけ広報に務める。

各競技団体への設置実施を推進し支援をする。

### 3. 実行委員会

JSAF 新年会を開催するにあたり、実行委員会を作り、準備と運営をする。

### 4. 対外活動

- (1) JOC 主催の女性スポーツ会議、フォーラム等に積極的に出席し、他のスポーツ競技団体との情報交換を行いながら今後のレディース委員会の発展に役立てる。

- (2) JOC キャリアアカデミー事業と連携し、女性選手の引退後のあり方などを検討する。

- (3) 女子選手権大会や特別加盟団体等と連携を図り、女性役員が主流となる大会をマネジメントし、有能な女性役員の養成や派遣に協力する。

- (4) 国際委員会と連携し、より迅速な情報を得る。国際的に通用する女性役員の在り方、継続性、女性セーラー及び役員 の普及、増加に努める。

- (5) 2020 年東京オリンピックに向けて、チャイルドルーム設置を実現するために準備委員会と連携し、努力していく。若い人材の発掘に努める。

- (6) 各水域とのネットワーク作りをする。女性の目線で熟慮し JSAF の委員会と連携しながら・JSAF の発展に貢献する。

- (7) JSAF における女性理事・女性役員 20%を目指す。女性が JSAF 役員に推挙されるよう、より一層努力する。

## アスリート委員会 （委員長：関一人）

1. ナショナルチームとの関係構築を図る（ミーティング）

2. JOC アスリート委員会との関係構築

3. アスリート支援事業のナショナルチームへの啓蒙活動

4. WS アスリート委員会との情報交換

5. セーリングアスリートの地位向上に向けた活動（震災募金活動等）

6. 東京オリンピックセーリング競技啓蒙を目的としたイベント参画



## 7. 東北地域の復興事業イベントへの参加

### 【障害者セーリング普及強化推進グループ】

#### 障害者セーリング推進委員会（委員長：鈴木 修）

##### 1. パラリンピックにおけるセーリング競技の復活

2024 パラリンピックでのセーリング競技の復活に繋げるため以下の活動を行う。

- (1) 2017セーリングワールドカップ(愛知)でのPARA種目の成功を目指し、PSAJはじめ関連するJSAF加盟・特別加盟団体、委員会と連携をとり日本選手の参加増員に務め、障害者セーリング選手のクラス分けに対応できるよう協力する。
- (2) 2017年パラワールドチャンピオンシップへの参加をPSAJと連携しJSAF加盟・特別加盟団体へ働きかける。
- (3) 2018年ハンザクラス・ワールド選手権（広島）の充実を図るためにPSAJはじめ行政を含めた関係団体と連携して準備を進める。
- (4) 2020年パラワールドチャンピオンシップ日本開催を実現するために、PSAJはじめ関係するJSAF加盟・特別加盟団体、行政を含めた関係団体と連携を図り準備を進める。

##### 2. 障がい者セーリングの普及推進

- (1) 各水域に対する障がい者セーリング推進委員会への参画要請を行い、底辺を拡げることに努める。
- (2) 障害者セーリングへの理解を高めるためにPSAJと連携し、JSAF加盟・特別加盟団体・委員会、会員、外部への広報活動を行う。
- (3) JSAFホームページに障害者セーリングに関する情報の提供ページを作成し普及に努める。
- (4) 障がい者セーリングの発展振興、安全のため、障がい者セーリング行事運営についてPSAJと連携し、JSAF加盟・特別加盟団体に向け研修を行う。
- (5) 全国障がい者スポーツ大会にセーリング競技の採用を実現するためにPSAJと連携を取り進める。スタートとして、東京都障害者セーリング連盟と連携し、東京都障害者スポーツ大会にセーリング競技を実現するよう働きかける。同時に、全国に展開できるシステムを検討する。
- (6) スペシャルオリンピックスへの対象の拡大検討を進める上で、基本的情報の収集と方針の策定案を検討する。

##### 3. 障がい者セーリングにおける強化推進

2017年以降のパラワールドチャンピオンシップ、国際大会参加、2024年パラリンピックに向け強化種目、強化フリートの指定検討、順位向上をPSAJと連携し、関係するJSAF加盟・特別加盟団体と協議し進める。

### 【競技推進グループ】

#### ルール委員会（委員長：増田開）

1. ルール関連資料の翻訳・発行
  - (1) 目的：セーリング競技の根幹であるセーリング競技規則（RRS）及び World Sailing 規定、関連規則・規則解釈等を、日本語訳して会員へタイムリーに提供する。
  - (2) 現状：RRS とケースブック、コールブック（マッチレース及びチームレース）を4年毎の改定の都度、日本語訳して発行している。加えて World Sailing 規定（毎年改定）、規則 42 の World Sailing 公式解釈、Q&A、ラピッドレスポンスコール等の World Sailing 発行ルール関連資料も都度日本語訳して WEB で展開している。2017年1月1日改定 RRS は H28 年度に発行済み。
  - (3) 実施内容：RRS 改定に伴う改定ケースブック、コールブックの邦訳書を発行（ケースブックは翻訳のみ実施し、発行・販売は出版社に委託する予定）。World Sailing 規定その他の World Sailing から発行されるルール関連資料を日本語訳してルール委員会 Web で展開
  - (4) 実施時期：World Sailing からの発行後 ASAP
2. ジャッジ・アンパイア関連書の翻訳・発行
  - (1) 目的：World Sailing 発行のジャッジ、アンパイア向けマニュアルの日本語訳・展開により、国内ジャッジ、アンパイアのレベル維持・向上を図る。
  - (2) 現状：ジャッジ・マニュアル、アンパイア・マニュアルの最新版・補遺版を都度タイムリーに邦訳・展開している。
  - (3) 実施内容：RRS 改定に伴う新版ジャッジ・マニュアル、アンパイア・マニュアルの邦訳書を発行・販売
  - (4) 実施時期：World Sailing から発行後 ASAP
3. 国際ジャッジ・アンパイア（IJ/IU）の育成
  - (1) 目的：世界に通用する国内のジャッジ・アンパイアを発掘養成して、国内レースの質の向上を図ると共に、特にアジア諸国など海外のジャッジ・アンパイアの育成にも貢献することで、ナショナルオーソリティとしての世界での地位向上を図る。
  - (2) 現状：IJ/IU 資格取得に必要とされる海外レース参加のための渡航費補助と、参加機会獲得支援やアジア諸国との IJ/IU 候補者の交換交流を継続的に実施している。現在、国内 IJ は 7 名（H27 年度末時点：70 代 2 名、60 代 2 名、50 代 2 名、40 代 1 名）、IU は 1 名（50 代）、若手 IJ/IU の継続的輩出が必要
  - (3) 実施内容：国内 IJ/IU 候補者に海外レース等を経験させるための渡航費補助については、今年度はオリンピック準備委員会事業として実施するのでルール予算には計上しない。アジア諸国の IJ/IU 候補者の JSAF 主催国際大会へ来日支援、国内 IJ/IU による機会獲得支援を行う。また、JSAF から WS に推薦する IJIU 候補推薦者選定のための IJIU 候補推薦委員会を開催する。
  - (4) 実施時期：IJ/IU 候補推薦委員会は 7 月、渡航費補助・機会獲得支援は都度
4. ナショナルジャッジ・アンパイア講習会（NJ-A/NU 認定講習会）の開催
  - (1) 目的：ナショナル A 級ジャッジ（NJ-A）、アンパイア（NU）を養成することで、国内レースの質の維持・向上を図る。
  - (2) 現状：NJ-A、NU 新規認定講習会をそれぞれ年 1 回以上開催している。また、A 級ジャッジクリニックを毎年全国各地で開催し、NJ-A のスキルアップに効果を挙げている。更新認定講習会は RRS 改定に合わせて 4 年毎に実施、更新認定講習は、H28 年度中に NJ-A は 10 回、NU は 3 回を実施（予定）。
  - (3) 実施内容：更新認定講習会は、H28 年度未受講者を対象に追加で NJ-A は 1 回、NU は 4 回開催する。今年度は資格更新年度に当たるため、新規認定講習会は NJ-A を 3 回、NU を 1 回開催、A 級ジャッジクリニックを全国 8 カ所程度で開催する。
  - (4) 実施時期：NJ-A 更新認定講習会：5 月、NU 更新講習会：4～7 月、NJ-A 新規認定講習会：7 月、1 月、3 月、NU 新規認定講習会：8 月、A 級ジャッジクリニック：12～3 月
5. B 級ナショナルジャッジ（NJ-B）認定のための付帯業務
  - (1) 目的：国内の初級ジャッジの養成
  - (2) 現状：講習会開催と試験実施は加盟団体・特別加盟団体に委託し、JSAF では試験問題・講習用補助資料の提供と認定業務を実施している。
  - (3) 実施内容：試験問題・講習用補助資料の作成と、認定業務と認定証発行業務、今年度は RRS 改

正の翌年度にあたるため、新規認定講習会は前年比増が予想される。また、更新講習会も H28 未実施の加盟団体・特別加盟団体で実施される見通し

(4)実施時期：都度

6. JSAF 主催大会等へのジャッジ・アンパイア派遣

(1)目的：国内レースの質の向上とナショナルジャッジ、アンパイアの養成

(2)現状：JSAF 主催大会等へジャッジ、アンパイアを派遣し、開催地のジャッジ、アンパイアとの交流により、ジャッジ、アンパイアの養成と能力向上に寄与している。

(3)実施内容：国体、ナショナルチーム選考レースを始めとする JSAF 主催大会等へのジャッジ、アンパイアの派遣

(4)実施時期：都度

7. 選手・指導者向けルール講習会の開催

(1)目的：特に初級選手やその指導者へのルールブック普及、スポーツマンシップとルールの理解を促進するとともに、ルールに関連した観点からセーリング競技をより魅力的なスポーツにすることで競技人口拡大にも貢献する。

(2)現状：本事業は H21 年度に開始し、8 年間に渡って実施してきた。受講者は 800 名を超える。特に、初級選手やその指導者へのルールやスポーツマンシップの浸透、普及率の低かった層へのルールブックの普及に効果を挙げている。

(3)実施内容：全国 20 カ所程度で実施する。

(4)実施時期：講習会：1～3 月

8. チームレースの普及

(1)目的：フリーレースに比してゲーム性の高いチームレースの普及により、ルール理解の促進を図るとともに競技人口拡大への貢献を目差す。また、JSAF 派遣アンパイアと開催地の選手やアンパイアとの交流により、アンパイアを発掘・養成する。

(2)現状：国内ではアンパイア制の大会（マッチレース／チームレース）が長年に亘り減少傾向にあり、特にチームレースの大会は極めて少ない。ナショナル・アンパイアも減少してきており、現在 26 名、一方で、オリンピックや世界選手権等でのアンパイア制メダルレースの採用を背景に、国内でのアンパイア制レースの普及とアンパイア養成の必要性が高まっている。

(3)実施内容：現在は国内のチーム対抗戦（例えば大学間の定期戦等）の殆どがフリーレース形式で実施されており、これらの主催者への働きかけ等によりチームレースの普及を図る。新たにチームレース大会の継続的開催を計画する主催者を対象に、チーフアンパイアを派遣する。

(4)実施時期：都度

9. 電子版ルールブックの発行とルールブックの普及

(1)目的：セーリング競技の根幹であるルールブック（RRS, ERS, JSAF 規程）の JSAF メンバーへの普及率を向上させる。

(2)現状：JSAF 会員約 1 万名に対し、改定前の旧ルールブック販売数は 4 年間で 4 千冊強であった。H28 年度理事会にて、新ルールブックを H29 年 1 月より初めて電子書籍としても発行することが決定された。

(3)実施内容：予定通り H29 年 1 月に電子版ルールブックを発行する。事業 8 の講習会やメーリングリスト等を利用してルールブック普及を図る（書籍 400 冊、電子版 500 冊の追加販売目標）。

(4)実施時期：都度

10. 委員会基本活動：ルール委員会の開催

(1)目的：ルール委員会活動の実施

(2)現状：多くの事業を遂行するために年 2 回の通常委員会（各 1 日）開催だけでは不十分なため、例年 1 回の臨時委員会（2 日間）を追加で開催している。

(3)実施内容：小委員長会議を 1 回（1 日）、委員会を 3 回（計 4 日間）実施

(4)実施時期：小委員長会議：6 月、通常委員会：6 月、12 月、臨時委員会：3 月（2 日間）

11. 委員会基本活動：ルール・ジャッジ・アンパイア情報の展開

(1)目的：ルール・ジャッジ・アンパイアに関する JSAF 会員との接点を増やし、JSAF としての

会員サービスを向上

- (2)現 状：ルール委員会 WEB、各加盟団体ジャッジ・ルール代表者のメーリングリスト及び、A級ジャッジのメーリングリストで情報展開している。
- (3)実施内容：メーリングリストの更新管理、WEB、メーリングリストでの情報展開を継続
- (4)実施時期：都度

## 12. 委員会基本活動：指導者資格更新のための義務研修の登録業務

- (1)目 的：日体教の認定する指導者資格を有する JSAF 会員の同資格の更新条件である JSAF 主催講習会等の受講状況を適切に日体教のデータベース (DB) に登録する。
- (2)現 状：ルール委員会の実施している講習会では、NJ-A、NJ-B、NU の認定講習会、ジャッジクリニック及び、選手・指導者向けルール講習が義務研修対象となっている。
- (3)実施内容：各講習会の公示時点での DB 登録、講習会実施後の受講者情報の DB 入力
- (4)実施時期：都度

## レース委員会 (委員長：大庭秀夫)

### 1. JSAF 方針を受けての平成 29 年度レース委員会の基本方針

JSAF レース委員会は、2020 東京オリンピックを見据え、オフィシャルズの計画的な育成・確保に向けて World Sailing スタンドアードに基づくレース・マネジメントの展開とともに、実践的なトレーニングを通じたレベルアップに取り組みます。これに向け、オリンピック準備委員会をはじめとする関係委員会との連携を強化するとともに、国内で開催される World Sailing 大会、国内主要大会へのオフィシャルズの派遣、World Sailing Officials を招聘したセミナー、クリニックを企画推進します。また、安全・公正・公平な外洋艇オープンレースに向けた取り組みを行うとともに、安全な本格的な外洋レース、大型艇レース運営に向け、外洋艇に特化したレース・マネジメント・プログラムの整備を関連委員会と協業で推進します。

### 2. 平成 29 年度レース委員会の活動の重点

- (1) 2020 東京オリンピック運営チーム第一次編成と、コア・メンバーの計画的なスキルアップ
- (2) 各水域のレース・マネジメント・オフィシャルズのレベルアップ
- (3) 2017 World Sailing Sailing World Cup 運営チームの編成
- (4) International Race Officer 育成に向けた World Sailing IRO セミナ招致
- (5) 外洋合同委員会を軸とした外洋艇レース・マネジメントの更なる向上
- (6) 小委員会活動と各水域活動の活性化を通じたレース委員会活動の活発化

### 3. 平成 29 年度レース委員会の活動計画

- (1) 2020 東京オリンピック運営チーム第一次編成完了
- (2) 2020 東京オリンピック運営チーム第二次編成に向けたメンバーの発掘と育成
- (3) 2017 World Sailing Sailing World Cup 運営チーム編成
- (4) 2017 World Sailing Sailing World Cup 運営機材検討とオリンピック準備委員会への提案
- (5) 国内開催 World Sailing 大会へのオフィシャルズ派遣
- (6) レベルアップに向けた国内主要大会への World Sailing Mentor 招致
- (7) World Sailing IRO セミナー招致
- (8) 国際委員会と連携した、World Sailing レース・マネジメントの最新情報収集と展開
- (9) JSAF レース・オフィサー(NRO.ARO.CRO)・テキスト改訂と認定講習会・認定試験実施
- (10) JSAF 外洋系レース・オフィサー・プログラム構築と認定講習会・認定試験の実施

- (11) JSAF レース・マネジメント・クリニック・プログラムの改訂とクリニック実施
- (12) 国民体育大会、国民体育大会リハーサル大会へのレース委員派遣
- (13) 国民体育大会開催県、後催県へのレース・マネジメント・レベルアップに向けた支援
- (14) 外洋合同委員会の開催
- (15) 管理水面における安全対策と危機管理マニュアル等の充実
- (16) JSAF 共同主催・公認申請の審査
- (17) 全国レース委員会の開催

### ワンデザインクラス計測委員会（委員長：名方俊介）

1. セーリング装備規則（ERS）の翻訳、印刷、発行
2. ERS 更新講習会の実施
3. ERS 新規認定講習会の実施
4. ERS 受講者名簿及び各クラスメジャー名簿の管理
5. 国際大会に向けた計測員資質向上を目的とした計測セミナーの開催
6. インターナショナル・メジャー（IM）養成の支援
7. 日本セーリング連盟（JSAF）運営規則・ディンギー系全日本選手権大会に基づく計測管理（大会計測員名簿、各クラス大会用計測用紙（計測項目等一覧表）、計測実施報告書等の管理
8. 各クラス計測講習会実施の支援
9. 各クラス協会等との関係の調整と確立（ERS 講習会業務委託を含む）
10. World Sailing Ltd のインハウス証明（IHC）プログラムに伴う AA（検査機関）としての業務と IHC ステッカーの管理業務
11. ディンギー系全日本選手権大会の計測実施に伴う各クラス大会用計測用紙（計測項目等一覧表）の作成
12. 国体及びリハーサル大会の計測部員の推薦と計測運営マニュアル等書式一式当該年度版への修正作業
13. ワンデザインクラス計測委員会の体制拡充と強化
14. ワンデザインクラス計測委員会のホームページの充実
15. その他

### 国際委員会（委員長：戸張房子）

1. 国際会議への代表者、委員の派遣
  - (1) WS ミッドイヤーミーティング 2017 年 5 月 6～9 香港またはシンガポール  
出席予定者：大谷たかを
  - (2) WS 年次総会 2017 年 11 月 プエルトバヤルタ・メキシコ  
出席予定者：大谷たかを、柴沼克己、小林昇、田中正昭、入部透、須藤正和  
(2017 年 1 月末に WS 次期委員が決定するため変更あり)

- (3) ORC 年次総会 2017 年 11 月 プエルトバヤルタ・メキシコ  
出席予定者：植松眞、小林昇
- (4) IRC 年次総会 2017 年フランス（予定）  
出席予定者：角晴彦他（派遣費用は国際委員会予算外）
- (5) ASAF 年次総会 場所未定  
出席予定者：荒川博人
- 2. Sport For Tomorrow Project（外務省・スポーツ庁）の実施  
詳細未定（2017 年度 4 月に決定） 普及指導委員会と協力し、セーリング途上国の選手・コーチの  
招聘または海外派遣による研修を計画中。JOC オリンピックソリダリティ事業も申請予定。
- 3. 外洋艇 普及促進のためレーティングの導入および管理（外洋計測委員会と連携）
  - (1) IRC レーティングの普及および運営
  - (2) ORC レーティングの JSAF 計測委員会が証書発行開始（ORCAN から移管）  
上記両レーティングの計測共通化の情報収集
- 4. 2020 年 東京オリンピック・パラリンピック準備委員会と協力し、WS との協議等に関し協力。セー  
リング競技をパラリンピックに復帰させる活動への協力
- 5. ワールドカップ蒲郡大会、ディンギークラス・外洋艇の国際レース開催、参加への協力
- 6. 国際的な情報収集およびその情報の迅速な提供
- 7. 日本から海外への情報発信
- 8. オリンピック強化委員会と協力し、オリンピックセーラー育成、ゴールドプラン実現  
のための国際情報収集・提供。海外 MNA との友好関係の構築・強化、交流の促進
- 9. ルール委員会、レース委員会、ワンデザイン計測委員会と協力してルールおよび  
レース・マネジメントに関する情報収集、並びに IJ, IU, IRO, IM の育成サポート

## 医事・科学委員会（委員長：山川雅之）

- 1. 選手の健康管理、外傷予防に関する事項
  - (1) 医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる指導
  - (2) 相談、要望に対する対応
  - (3) 講習の実施
- 2. アンチドーピングに関する事項
  - (1) ドーピング検査に対する NA として参加
  - (2) 選手、コーチ、監督、指導者にアンチドーピングの指導・啓蒙
  - (3) スポーツファーマシストの育成
- 3. 競技会における救護に関する事項  
救護体制の指導・助言
- 4. 安全の講習および公認コーチ講習に関する事項  
講師の派遣
- 5. 海外派遣選手に対する医学的指導、医師、トレーナー等帯同に関する事項

相談・要望に対する対応

6. 公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト、公認スポーツ栄養師、公認トレーナーに関する事項
  - (1) 日本体育協会への推薦
  - (2) 更新の手続き
7. トレーニングに関する事項
  - (1) トレーナーによる指導
  - (2) JISS との連携
  - (3) コンディショニングの指導
8. 選手の栄養に関する事項  
管理栄養師による管理、指導
9. 委員の増員、委員会組織の見直し
10. その他、特命事項  
普及指導委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連携

#### ドーピング裁定委員会（委員長：棚橋善克）

1. ドーピング違反事案発生時、JADA と連携を取り合い、裁定を行う。
2. 医事委員会と連携し、アンチドーピング思想の普及に努める。

### 【普及強化推進グループ】

#### 普及指導委員会（委員長：川北達也）

JSAF 平成 29 年度基本方針、および実行計画に基づき、以下の事業を行う。

1. セーリング・スポーツの発展振興と安全確保  
ユース、次世代セーリングのさらなる発展に向けて  
公認スポーツ指導者の継続的拡大
  - (1) 次世代公認指導者の養成  
指導者育成を通じて加盟団体の組織活性化への貢献
    - ①公認指導者養成講習会の開催（日体協委託事業）
    - ②公認指導員専門科目講習会を、県体育協会と連携して主催する加盟団体(都道府県連)の要請に基づき、専門科目講習の支援（講師斡旋/講師派遣）
  - (2) 公認指導者の継続的レベルアップ
    - ①指導者講師研修会の開催（日体協助成事業）  
ジュニア、ユースの標準的指導方法の浸透に向けた、メニューの展開
    - ②義務研修の受講促進  
指導者資格更新に必要な義務研修実施と加盟団体主催講習会の義務研修認定

研修情報の周知受講者情報の確実な登録を実現する関連委員会との仕組み構築。

③指導者リストの整備

更新まで1.5年以内の指導者資格保有者に対して、義務研修受講情報の提供

(3) セーラー育成システムの標準化

①育成に必要な項目を標準化したガイドンスの作成と展開

②ジュニア・ユース育成指導者が活用できる教材の作成と展開

③全国のセーリングスクールの調査、および認定基準の策定

(4) 国際人材育成制度（仮称）に基づく、人材発掘と育成

国際連盟および他国からの指導者育成ノウハウの収集

①への企画申請と、人材派遣支援（スポーツ庁委託事業）

②スポーツ指導者海外研修事業への推薦と派遣支援（JOC 事業）

(5) 国内外コーチング情報の収集と展開

①JOC コーチングアカデミーへの人材派遣

②World Sailing デベロップメント会議参加

国際標準の指導育成情報、及びノウハウの収集と展開

2. 2020 東京オリンピック・パラリンピックへ向けて

(1) World Sailing/ASAF での JSAF 地位向上

①国際委員会が展開する SFT 事業への支援

3. 広く普及啓発し、セーリング界の裾野を広げる

普及啓発

(1) バッジテストシステムの再構築

①バッジテスト検定制度改定案の策定

ジュニア・ユース世代が楽しんでチャレンジできる仕組みの検討

(2) 安全確保のキャンペーン展開

①ライフジャケット/キルコードの使用徹底

指導者等が乗るラバーボートのキルコードの正しい使用方法を展開

②練習環境の安全徹底

練習海面の安全基準チェックリストの展開

③強風域に対する大会参加資格基準の検討

バッジテスト中級、上級の送別の検討

(3) セーリング界の外のファンの開拓

①加盟団体、特別加盟団体の普及活動支援

「海と日本プロジェクト」企画申請と参加団体実施支援（日本財団委託事業）

4. セーリング界を支える連盟組織の強化

(1) ホームページの充実

①加盟団体、特別加盟団体参加の指導者への情報展開強化

委員会ページの改定

(2) セーリングを支える委員会活動の活発化



## ①JSAF 実施事業の質的向上と委員会ノウハウ交流

他委員会との協業事業の拡大

### 国体委員会 （委員長：末木創造）

1. 第 72 回国民体育大会愛媛国体セーリング競技会の準備を推進し、競技方法及び大会運営方法について検討を進め、同大会を開催する。
2. 福井国体リハーサル大会の準備を支援し、同大会を開催する。
3. 第 73 回国民体育大会福井国体セーリング競技会の大会開催の準備を推進する。
4. 中央競技団体として国体開催予定地の正規視察及び指導・助言を行う。
5. 国体開催地正規視察を終えた三重県、栃木県等の国体開催予定地の準備を支援する。
6. 日体協の国体改革に合わせ国体及びリハーサル大会の簡素化を進める。
7. 国体イベント事業及び「見える国体」「見せる国体」について支援及び実施する。
8. 国体及びリハーサル大会実施を機に開催地市民にセーリング・スポーツの普及を図り、開催県連とともにその活動を推進する。
9. 国体及びリハーサル大会開催を契機として、「海を汚さない」美化啓蒙活動並びに環境美化を推進する。
10. 少年種目の中学 3 年生の参加について推進する。
11. 2020 東京オリンピック、World Cup、艇種別世界選手権大会の国内開催に向け、レース運営のスキル、競技役員の資質向上を図るために国体のレース運営を活用した支援を行う。
12. 国民体育大会セーリング競技研修会を開催する。
13. 国体委員会の事業収益について検討を進める。
14. 県名・県番号の販売斡旋を行う。
15. 国体ウインドサーフィン級の年度登録及び管理を行う。
16. 上記の諸事業を通してメンバー増強推進を図る。

### オリンピック強化委員会 （委員長：斎藤 渉）

1. 東京五輪でのメダル獲得に向け、万全の強化体制を構築し、選手・コーチ・スタッフ一体となって取り組む。特に医科学サポートについては、従来以上に注力する。
2. 東京五輪およびその後を見据えた次世代の発掘・育成・強化に取り組む。
3. 海外優秀コーチの招聘により、選手・コーチのレベルアップを図る。
4. ルールの理解向上と審問対策について、レベルアップを図る。
5. 各クラス協会と連携を深め、協同で強化体制を構築する。
6. スポンサー企業との連携を深め、効果的・効率的に強化事業を実施していく。
7. オリンピックを目指すチーム関係者、外部の協力者・支援者等と密接に連絡を取り、連携しながら強化活動を行う。

## ジュニアユースアカデミー委員会（委員長：中村公俊）

ジュニアユースアカデミー委員会では、ジュニア、ユース、次世代セーリングの発展及び海上安全教育の推進並びにジュニアからの継続的な活動支援によるセーリングの普及を目的として、以下に掲げる1-4の事業を実施していく。

### 1. アカデミーコーチバンクの整備

歴代オリンピック及びナショナルチーム経験者（コーチを含む）を対象として、アカデミーコーチバンクを整備する。

### 2. 教本の作成

シーマンシップ啓発用の教本を作成し、事業実施時に配布する。

### 3. 広報活動

WEBを通じて広く事業内容の周知を図ると共に、積極的に活動内容や開催地についてのレポートを掲載することにより、事業効果を促進する。

### 4. ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー事業の開催

下記により、シーマンシップの啓発を目的として、全国で開催されるジュニア・ユース世代が対象の合宿や大会等にアカデミーコーチを派遣する。

(1) 年間20回の開催を目標とし、1回につき2名程度のコーチを派遣する。

(2) 実施希望団体との調整により、以下の内容で事業を実施する。

①ジュニア・ユースセーラーへのコーチング

②ジュニア・ユース指導者への指導内容や指導方法に関する助言や提案

③ジュニア・ユースセーラーとその関係者を対象とした講演

④その他

### 5. 委員会の開催

適宜、委員会を開催し、事業内容の確認や見直し等を協議すると共に、他委員会との連携や協業を積極的に検討する。

## キールボート強化委員会（委員長：中澤信夫）

1. JSAFへ届くキールボート系海外招待レースへの出場チーム選考、キールボートナショナルチーム選考・支援及び代表チーム強化の環境構築

2. セーリングパーク構想に向けた環境の開拓、推進、提案活動の実践

3. キールボートワンデザインクラスの活性化に繋がる協力・支援活動

4. 大学対抗&U25 マッチレース選手権 2018 開催に向けての支援協力活動

5. ネーションズカップ 2017 への日本代表チーム派遣及び支援

## オリンピック・パラリンピック準備委員会（委員長：河野博文）

1. 長期的な東京オリンピック・パラリンピック準備委員会の課題は以下の通りである。
  - (1) Sailing ワールドカップ大会の効率的な運営体制整備
  - (2) オリンピック準備委員会の体制整備と人員の拡充、運営担当者・ボランティアの人材確保と育成
  - (3) 東京オリンピック会場の施設・運営機材整備に関わる支援
  - (4) オリンピック強化選手への支援
  - (5) 日の丸セーラーズ協賛会社の獲得と寄付金獲得
  - (6) 国際レースの開催支援
  - (7) IRO、IM 及び IJ 等、国際資格取得の支援
  - (8) 世界に情報発信を行うための英文ホームページの整備・拡充
  - (9) WS、IRO 等、国際機関との連絡及び調整
  - (10) オリンピック開催地である神奈川県、藤沢市及び江ノ島ヨットハーバーとの連携
  - (11) その他
2. オリンピック・ワールドカップに於ける運営担当者及びボランティアの人材確保と育成
  - (1) オリンピックレース運営に係る IRO,IJ,IU 及び IM 等の国際資格を取得するために、国内外で行われる国際的なレースに運営スタッフとして派遣する際の支援
  - (2) 国内で資格取得のためのセミナーやクリニックを開催し、WS 等から講師を招聘する際の支援
3. 2017 ワールドカップ蒲郡大会の開催
4. その他国際レースの開催支援
  - (1) レース開催に係る人的及び経済的支援
5. オリンピック強化選手への支援
6. 日の丸セーラーズ協賛企業の確保と寄付金獲得
7. 英文ホームページの整備・拡充

## 【外洋艇推進グループ】

### 外洋常任委員会（委員長：植松 眞）

1. 外洋艇推進グループ内の会議開催
  - (1) 外洋加盟団体長会議を開催する。（年 2 回予定 9 月、1 月）
  - (2) 外洋常任委員会を開催する。（年 4 回予定 適時）
  - (3) 外洋専門委員会合同会議を支援する。
2. 外洋艇登録の管理
  - (1) 28 年度に継続して外洋艇登録情報開示艇数の増加を図り、開示することによる登録艇数の拡大を期待するとともに外洋専門委員会の活動を援助する。
  - (2) 艇登録証の加盟団体からの発行システムについて管理する。
3. 外洋に関する情報の発信
  - (1) 引き続き外洋のホームページを運営して、会員に情報を発信する。

## 外洋計測委員会 （委員長：吉田豊）

日本セーリング連盟に登録された様々な大きさや型式の外洋帆走艇を JSAF が公認するレーティングシステム（IRC、ORC）によって計測し、公平で信頼性のある証書を発行及び運用することを目的として事業展開を行い、関連する委員会と協力して、オフショア・レースの継続と発展に寄与する。

1. JSAF が公認する IRC レーティングシステムの一層の普及を IRC 委員会と協働して、推進する。詳細な事業計画案は IRC,ORC の各委員会の事業計画による。
2. IRC 委員会は、信頼できる証書の発給、レーティングシステムの運用、レースの運用、国際的な活動において信頼できる十分な活動を行っている。引き続き、会員の信頼に応えられるように、活動を続ける。
3. 昨年度から、外洋計測委員会内部に ORC 委員会を組成して、これを運用した。発行実績としては 60 隻。組織としては脆弱であるので、人員やシステムを含めて増強して、ORC レーティングシステムの一層の普及を推進する。また、この委員会の赤字額も大きいので、この問題を外洋計測委員会の問題として扱い、組織、システム、人員配置等を含めて、改善策を模索する。これを担当するグループを立ち上げる。
4. セールメジャラー部会と協力し、セールメジャラーへの計測技術の講習と習得。そして、その適切な運用と円滑な計測業務を推進する。今年度は、ODC 委員会、IRC 委員会、ORC 委員会から講師を派遣して、ERS の講習をはじめ、クラスルールの講習を徹底する。
5. パフォーマンス・ハンディキャップ委員会を、八木氏を委員長が運用している。引き続き、PHRF についての認識、理解を各地のハンディキャッパーと共に会員に対して進める。公認されたレーティングシステムと提携して、会員の増強と公認レーティングへの移行を進める。
6. ワンデザイン計測委員会に協力して、セーリング装備規則（ERS）等をはじめ計測規則の解釈に関する統一性を保ち、適切な計測業務が遂行されるように指導、監督する。
7. 外洋艇クラス協会（X35、J24、メルジェス協会）もクラスの計測業務を行うので、それらの計測状況の把握を目的として外洋計測委員会会議において、各クラス協会から報告を得る。
8. IRC 委員会、ORC 委員会、その他クラス協会の計測担当者とセールメジャラー部会の委員を含めて、外洋計測委員会会議を開催する。各委員会の業務報告、計測実態、計測員講習ならびに養成等について報告と討議を行う。
9. 海外のレーティングシステムについての状況を調査して、関連する書類の翻訳を行う。また、それに関連して書籍や計測装備品の購入を進める。

## 外洋技術委員会 （委員長：林賢之輔）

1. 小型船舶に対応する ISO の国内導入に関し、日本小型船舶検査機構（JCI）が主導する会議に出席し、意見具申する。また、ISO 国際会議に出席を要請された場合、人員を派遣する。
2. 法制委員会と協力し、日本小型船舶検査機構（JCI）との懇談会に出席して、規制緩和に向けて意見具申する。
3. ISO12217-2 STIX（ISO スタビリティー基）の検討のために、メンバーの増強をする。構成は、

従前のメンバーに加えて、新たに東島氏、金井氏に参加していただく。林、角、東島、金井の4名での構成

## IRC 委員会（委員長：川合紀行）

### 1. 今期の登録数

日本の外洋レースへの導入を始めて今年度で11年目を迎える。ほぼ国内全ての地域でIRCが導入された。昨年度とくらべると、登録艇数、証書発行は約5%減。委員会としては日本国内では、この規模が現有最大の数値になると理解している。従って今期の登録数は現状維持の300艇と証書発行350枚を目標としたい。今後もIRCレーティングシステムの一層の普及と拡充、そして利用会員の利便性を増進して、引き続き委員会としての業務を継続し、これを更に展開する。

### 2. IRCレーティングの実績（証書発行）

2007年度	96艇	109枚の証書発行
2008年度	120艇	150枚の証書発行
2009年度	220艇	300枚の証書発行
2010年度	259艇	334枚の証書発行
2011年度	275艇	348枚の証書発行
2012年度	299艇	380枚の証書発行
2013年度	314艇	412枚の証書発行
2014年度	312艇	371枚の証書発行
2015年度	309艇	366枚の証書発行
2016年度	293艇	347枚の証書発行

### 3. IRC普及活動

国内でのIRCルールの利用普及のために各地で開催されるレースについてIRC委員会として継続的に支援する。

### 4. 国際会議への参加

IRCコンgressにも引き続き委員を派遣して、国際的な活動でも貢献する。World Sailing総会には、今年度も角氏（IRCレーティングオフィス）を派遣する。角氏の技術報告も引き続き、重要なので、国際委員会と共同して派遣を継続したい。

### 5. IRC委員会会議

IRC委員会会議は年間に2回から3回開催している。業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告等を行う。参加者は10～15名

### 6. 計測機材の維持

計測機材については、JSAFで5トン、12トン、20トンの3機種を保有して運用している。それぞれの重量計の定期的なキャリブレーションを順次イギリスに送り実施する。

### 7. 国内で行なわれる主要規格レースへの支援

今年度もジャパンカップをはじめ、ミドルボート全日本、ミニトン全日本等のレースに要請があれば、IRC委員の派遣を含めて支援（計測技術）を行う。

## 8. 外洋合同委員会会議への参加

外洋のレース・計測・安全・ルール委員会が集まり、合同で会議を行う（2017年2月に蒲郡で行われるが2018年の場所は未定）。IRC コングレスの報告とルールの変更点の解説及びその運用と計測組織についての説明、併せて参加加盟団体の代表者や計測員からの質問を受け、要望や意見の聞き取りを行う。

## 9. IRC オーナーズ協会からの普及活動

IRC オーナーズ協会会長は平井会長が引き続き会長職を務める。IRC 委員会としては、引き続きIRCの普及のためにIRC オーナーズ協会と協力して各地のレースへのIRC採用を働きかけるとともに普及活動を活発化する。

## ORC 委員会（委員長：吉田豊）

### 1. ORC 委員会

昨年度、外洋計測委員会が担当して ORC レーティングシステムの運用するために、ORC 委員会を構築した。委員会の組織は、計算室、事務局、計測員等 8 名で構成。現状、ORC のユーザーは、北海道、関東と西内海、関西ヨットクラブに偏っている。昨年度の登録艇数は約 60 隻であった。ORC レーティングシステムの一層の普及と拡充、そして、利用会員の利便性を増進して、引き続き、切れ目なく、業務を継続し、ユーザーの期待に応えたい。予算に関しては、今年度赤字幅の縮小に努めたが、組織の構築期ということもあり、必要な経費は存在する。また、この問題に関しては、単体での努力では限界があると思う。今期は、外洋計測全体の問題として、IRC を含めた組織の再構築を含めて検討を行い、更なる経費の減少を目指して組織を変革する。

### 2. ORC レーティングの実績（証書発行）

2016 年度 ORCC 55 艇

ORC-I 3 艇 (KYC)

### 3. ORC 普及活動

委員会として、ORC より 2 種 4 個のカップの寄贈を受けた。これらを適切に ORC 採用するレースに配布して、普及を進める。国内での ORC ルールの利用普及のために、各地で開催されるレースについて、ORC 委員会として継続的に支援する。レースの算出ソフトの RMP のシステムの完成と普及を進めたい。また、今期は現状 1 名の計測員しか活動していない実情に鑑み、計測員の増員のために、計測員養成講習会を開催したい。

### 4. 国際会議への参加

ORC コングレスにも 技術委員を派遣して、国際的な活動でも貢献する。ISAF 総会には、今年度も ORC 委員小林昇氏を国際委員会と共同して派遣を継続したい。

### 5. ORC 委員会会議

ORC 委員会会議を年間に 4 回程度開催したい。業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈、計測員の認定、国際会議の報告等を行う。参加者は 8 名程度を予定。

### 6. 計測員に対する講習会 ERS 講習会と認定

今年度は、ERS の変更年度になる。外洋計測委員会の開催する ERS 講習会に際して、セールメジ

ャラーに対しての ORC の計測講習を実施する。

## 外洋安全委員会 （委員長：大坪明）

### 1. 外洋合同委員会の開催

外洋レースの全国均一化を図るために、加盟団体に情報提供の場として関係委員会と合同にて会議を開催する。

### 2. JSAF 外洋特別規定の普及

(1) JSAF 外洋特別規定解説講習会（主催および講師派遣）

(2) JSAF 外洋特別規定の作成（ISAF-OSR2016-2017 の翻訳とローカライズ）

(3) JSAF 主催レースの協力

### 3. 安全航行の啓蒙

#### (1) 安全週間の実施

春と秋の 2 回、安全週間を設け安全航行に対する意識の向上を図る。

#### (2) 安全航行に関わる情報発信

外洋安全委員会ホームページ、フェイスブックの運営。加盟団体担当者へメール送付など。

#### (3) 船舶安全航行に関わる情報収集

海難防止強調運動委員活動。（海難防止協会）

日本小型船舶検査機構との定期会合など。

#### (4) 安全講習会への講師派遣

#### (5) 安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ

無線機器の使用認可や通信費用の低減などの働きかけ。

#### (6) 安全航行アーカイブ（「ヒヤリ、ハッと」体験談）の作成

事故や事故未遂、安全対策などセーラーの体験談を収集、公表。

### 4. 無線局の普及

#### (1) 無線海岸局の管理

71ch・74ch 使用海岸局の認可、など

#### (2) 無線船舶局の普及

無線免許取得の補助（民間業者とタイアップして免許取得講習会費用割引）

## アメリカズカップ委員会 （委員長：植松眞）

### 1. アメリカズカップへの支援

アメリカズカップのソフトバンクチャレンジの後方支援をする。

### 2. 大型艇によるトップレースへのチャレンジの可能性を探る活動を継続する。